

# はっとい院長の健康トーク Vol.3

金沢市大友1丁目109番地  
はっとい大腸肛門クリニック  
服部 和伸  
076-238-8101



## 痔核の治療

内痔核の治療について私のやり方をお話しします。内痔核は、脱肛、排便時の出血、疼痛がおもな症状です。治療は脱肛の程度により異なります。

脱肛がなく、わずかな出血であれば、内服薬・坐薬・軟膏が有効です。ほとぼしるような出血がある場合は、硬化療法で治ります。

脱肛があっても自然に肛門内に戻るような軽い場合は、特殊なゴム輪の結紮(けっさつ)が有効です。

手で戻さなければならないような高度の脱肛がある場合は、硬化療法や手術で治ります。痔核が直腸内だけにとどまっている時は硬化療法が適応ですが、痔核が肛門の外にも腫れているような場合や力仕事や長時間の車の運転をする方は手術が良いでしょう。

「硬化療法」とは痔核に直接注射して固める療法です。従来から硬化療法はありますが、私がやっているのは特別な硬化療法です。これは北京にある中医研究所公安門病院の史兆岐教授が開発した療法で漢方薬の五倍子やミョウバンなどから作られております。私が史教授のところへ留学して、導入しました。

2005年の3月からは厚生労働省から認可を受け、日本でも正式に使用できるようになりました。

出血に対しては、ほぼ100%、脱出対しても95%の効果があります。

なによりも、治療後の痛みがほとんどなく、外来で済みますので、時間のない方の治療には最適だと思います。ただし、外側に腫れている外痔核の成分が多い場合には適応となりません。

手術は「結紮切除術」といいますが、手術する人によりその手技は異なります。私の方法はイギリスのパークス博士によって始められた術式で、東京の立川共済病院の守谷先生が日本に紹介しました。私はこの守谷先生から直接指導を受けました。この術式は肛門の皮膚や粘膜を極力残して、その下の痔核の本体のみを摘出する方法です。この手術は時間もかかり、技術的にむずかしいため、トレーニングをつんだ人でないとうまくできません。そのため日本ではあまり普及しておりません。

また、この方法ですと手術後の痛みも軽く、1~2ヶ所の切除では外来で、3ヶ所の切除の場合は入院が必要ですが、入院期間は平均すると1週間程度ですみます。ただし、手術の創は便が通るところなので、縫うことができないため、治るまでには3~4週間かかります。このあいだは、便を柔らかめにして、スムーズな排便に努め、排便後はウォシュレットなどできれいに洗って清潔にしておくことが早く治すコツです。

また、巨大な痔核を外来で手術する場合は「振り分け結紮術」という手術法を採用することもあります。これは華岡青洲やその弟子の本間棗軒らが江戸時代から行っていた日本伝統の手術方法で、非常に有効なこともあります。